New

タキイ交配

タマネギ

「ケルたまルビー」

機能性成分のアントシアニンが豊富！栽培容易で色鮮やかな赤タマネギ！

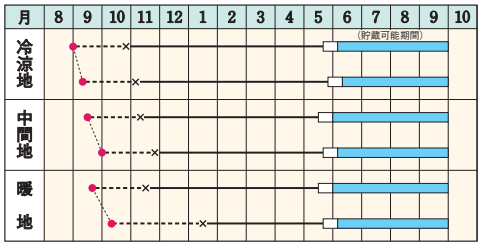
タキイ研究農場
吉井（よしい）　孝光（たかみつ）



Phyto Rich ファイトリッチ®

ポイント

- 機能性成分のアントシアニンを豊富に含む
- 梅雨入り前に収穫可能な中早生種
- 抽苔（ちゅうだい）や分球が少なく栽培容易



赤タマネギは赤と白のコントラストが料理を鮮やかに引き立てるだけでなく、食味にアクセントを加えてくれます。近年伸びている中食のサラダでの利用も多く、注目を集めています。

一方で赤タマネギは黄タマネギに比べ品種の選択肢が少なく、また、熟期の遅い品種が中心です。そこで、タキイでは梅雨入り前の天候の比較的安定した時期に収穫でき、収穫時から発色にすぐれる赤タマネギを目標に育成を進め、このたび新品種「ケルたまルビー」として発表いたします。ポリフェノールの一種であるケルセチンを豊富に含む「ケルたま」に続き、アントシアニンを従来の赤タマネギ（猩々赤）より豊富（5倍以上）に含有する、タマネギのファイトリッチシリーズの第二弾です。赤紫色がルビーのように鮮やかであることから、命名しました。プロの生産者から、家庭菜園愛好家まで幅広くお使いいただければと思います。

品種特性

５月中下旬から収穫可能な中早生種

「ケルたまルビー」は、赤タマネギとしては収穫時期が比較的早く、５月中下旬から収穫可能である中早生種です。作付けの多い中生種の前に収穫を行うことができ、作業計画を立てやすい品種です。また、玉のしまりがよく、９月まで貯蔵することが可能です。

抽苔（ちゅうだい）や分球が少なく作りやすい

草姿が立性で葉折れしにくいため、除草や農薬散布といった栽培管理作業を容易に行うことができます。また、抽苔や分球の発生が少なく作りやすい品種です。

色鮮やかで生食に適する

外皮は赤紫色に色濃く着色し、ひときわ目を引く外観になります。内色も収穫時からしっかり着色します。食味は辛みが少なく、甘みが強いため、サラダなどの生食に適します。

栽培ポイント

熟期が早く栽培しやすい「ケルたまルビー」の特性を発揮するためには、以下の３つのポイントが重要になります。

1 早まき・早植えを避ける

中早生種ですが、生育が旺盛であるため、播種・定植は中生種に準じます。早まき・早植えを行うと冬期の生育が進みますが、葉枚数が多くなりすぎて、かえって熟期が遅くなったり、過剰な肥大や裂皮を招きやすくなり、品質や貯蔵性の低下につながります。適期表を確認し、栽培地域に適した播種・定植期を守りましょう。

2 的確な追肥で順調な生育を促す

貯蔵性が高く、球内色の着色が早い良品を収穫するためには、多肥栽培や肥料の遅効きを避けることがポイントです。収穫時期には、チッソ分の肥効が徐々になくなっていくような作りが理想です。

元肥は全チッソ量の約半分とし、残りを追肥として施用します。中間地で11月に定植を行った場合は、追肥を３回に分けて行います。12月中下旬に１回目、１月中旬に２回目、止め肥は２月中旬が目安です。暖地で定植を１月に行う場合は、追肥は活着後の１月下旬、２月下旬の２回が目安です。多収をねらって、元肥を多く施したり、３～４月に追肥を行うと品質の低下を招く恐れがあります。

3 収穫適期を守り、十分乾燥させる

収穫は倒伏ぞろいの後、５～７日程度経過した晴天の日をねらって行います。早どりは肩落ちや早期の萌芽（ほうが）の原因となり貯蔵性の低下を招き、遅どりは皮裂や病害の原因となります。天気を見ながら適切なタイミングで収穫しましょう。

収穫後は、１～２日ほど天日干しを行い十分に乾燥させたのち、雨のあたらない風通しのよい場所で保管します。十分に乾燥させることが貯蔵腐敗を少なくするポイントです。

アントシアニン摂取には生食がおすすめ！

「ケルたまルビー」に豊富に含まれるアントシアニンは水溶性ですので、煮物料理は色落ちするなど不向きです。サラダなどの生食が色合いもよく、効率的に栄養成分を取ることができます。生食しても辛みが少ない品種ですが、気になる場合は５分ほど水にさらしてください。長くさらすと栄養が溶け出すので注意します。

また、赤タマネギは酸を加えると、より鮮やかな赤紫色になり食欲を刺激してくれます。酢やレモン汁を使ったピクルス、マリネなどもおすすめです。





タマネギ特性比較

品種名	早晩性	収穫期	球形	球重（g）	収量性	貯蔵性（注）
ケルたまルビー	中早生	5月中下旬	へん円	290	◎	９月末
猩々赤	中晩生	6月上中旬	へん円	320	◎	８月末
ターボ	中生	5月下旬～6月上旬	豊円	320	◎	12月末
ネオアース	中晩生	6月上中旬	豊円	350	◎	２月末～３月
ケルたま	晩生	6月中下旬	中甲高	280	◎	３月末

（注）吊り貯蔵可能期間

「ケルたまルビー」栽培メモ

最適播種期	中間地	９月中下旬
	暖　地	９月下旬
最適定植期	中間地	11月中旬
	暖　地	11月中下旬（近畿以西は１月上旬）
施肥の目安（10ａ当たり）	元肥：Ｎ成分で10～15kg 追肥：約３回、各々Ｎ成分で３～５kg	
播種基準	本圃10ａに対し50～80㎡の苗床を準備、４～６dℓ播種条まきで８～10cm、播種溝の深さは６～８㎜、種子間隔は10㎜程度	
定植基準	畝幅120～150cm、条間20～25cm、株間10～12cm	